
On Your Mark

おかげ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

On Your Mark

【Zコード】

N6701Z

【作者名】

おかげ

【あらすじ】

普通に過ごしていた主人公 カイトがある日事故にあって、植物状態になる。心配し、悲しむ人たちの中の一人の少女の前にカイトが幽霊であらわれて・・・

事故までがけつこう長いです。主人公は一応死にません。

プロローグ（前書き）

「こんにちはおかかです。
駄文ですが、読んでいただけすると嬉しいです。」

プロローグ

オレの名は山口海人やまぐちかいと

山も海も入ってるから天下統一もできるかもな……なんて、いつかうちの父さんが言ってた気がする。まあ、体育以外オール3のオレにわかるのだから、父さんは結構バカなのかも知れない。まあ、それは置いとく。

高一とは、受験もなくつて一番楽しい青春時代だ！そしてその高一の立場にオレはいる。九十浜高校の一年だ。え……つと、ピース？

今の季節は春ときた。そしてクラス替えでーす！

オレにも、好きな子がいる。幼馴染のアイツ。ゆきじゆなつき雪白夏季。夏と海で合つかもなんて考えるオレはやっぱり父さんに似ているのだろうか。クラス……同じだといいな。オレ女々しいな。　おつ貼り出されてる。

さつさあ見るぞ……。

「イエス！！」あつ……つに叫んでしまった。そしたら「オレと一緒に喜んでんのか？」と言つて抱きついてくる変態が一人。

「お～ま～え～は～～氣つ持ち悪いんだよ…」

「ひどいわ！カイトく～～～ん？」

「うつわ……キモ。てか、抱きついてくるお前が悪い。」

そういうひとつひとつ動作で笑う一年がムカつく。

「一年生どもよく聞け　　い。オレを笑つていられるのも今のうちだかんな。」

「でもでもつ体育以外はオール3じゃないですかあー！カイト君ー！」

「つるせー！黙つとけ！」

笑う全校生徒どっこから聞きつけたのか追つて来る校長と逃げるオレ。

プロローグ（後書き）

短いですね。すいません。幽体離脱はけっこつ後です
読んでいただきありがとうございます。
よかつたら感想お願いします。

クラス翻訳する方法（概要）

「いや。 おかげです。 今回は少し難しかった。 少しだけだね。」

クラス替えといふてわひロビン

紹介が遅れていたが、「ウザイ」「キモイ」「キャラ濃い」などと、思われた方も多いであろう。この名前は佐藤拓也。名前だけは立派なのにな〜〜。

女子から「たくちゃん」と呼ばれオレに向かって「オレモテすぎちやつて困っちゃ〜〜う。」などと言っているが、オレのがモテてるわ。ラブレターとか月一でもらうし、ハハーン。バレンタインともなれば、15個は固こ（義理含めて）いつか母さんに「顔と声はいいのにね〜〜。」なんて言われたが。置いといふ。

このクラスでよかつたー。先生も普通だし。

でも、

一番よかつたのは、ナツキと一緒にいたことだ。

そう思うオレは、やっぱり女々しい。

サバサバしているナツキのことだ。クラスが分かれたら、きっと切り捨てられてた。友達として。

ゴーカイな男ならよかつた。そしたら、クラスなんて飛び越えてでもナツキに会いに行くんだろうな。でもオレにそういう勇気はない。

ナツキとオレの関係は、幼馴染で友達。周囲から見れば「純愛」ツ

ポクでいいじゃない。なんて思われるかもしれない。

それは違う。

幼馴染だからこそ遠い。

いつのこと、タクヤみたく笑つていられるポジティブなやつならよかつた。なんて思ったことがあつた。ムリだし。なりたくないから、一瞬で捨てたけど。そんな事を考えていたら始業式が終わつてしまつた。

世界の中でも最上級の女々しさだと思つよ。オレだつて。

そのまま休み時間突入！かと思いきや担任の話。長くて楽しくないけど。まあこれが高校生のお仕事も一つですからね。しかたない。少し思つたことがある。担任は思つてたよりイイ奴みたいだ。

「 というわけで一年生として氣を引き締めていこう！なんて言つても、中だるみの一一年だしなあ。あつ一年の時G組のやつは今年もよろしくな。 長い話も終わりだから。それにしても、あからさまにほーっとしてくれるねえ。山口君。 」

「えつあつはい！すいませんでした————！」

みんながあまりにも大きい声で笑うから。つられて笑う。タクヤは腹かかえて笑つてる。まあ、後でシメルケド。ナツキも笑つてんなあ。ちよつとうれしい。

「じゃ————、休み時間にするぞ————。」

ガタガタガタガタ。

「アリガトウ」ざいました。」

う————むイイクラスだなあ。

そんなことを考へているとナツキとユヨルが寄つてくる

「また一緒によかつた————。友達いるのは安心だもん」うわグサグサくるなあ。友達————分かつてもね————。

「オレもよかつたよ。ナツキと一緒に！幼馴染だもんな。」自分で言つてりや世話ないぜ。

「私もね一緒によかつた————って思つてたところだよ」

「つちはコヨル。本名早川由夜スタイルが良くて身長がやや高い。オレよりはぜんぜん下だけだ。（オレ179cmでコヨルは170cmだからやや高めとなつてあります。ちなみに、タクヤは185cmでナツキは160cm。長身が多いグループだ。それゆえに低めのナツキはいつも「ずるいよ～～」と言つてゐる。）

オレとナツキとコヨルとタクヤは仲がいいとされてゐる。

「私ね！海に行きたい！四人で！夏休みに！」

「氣イ早！！コヨル！」だつてまだ一学期はじまつたばつがだよ！

おかしくね！？

「夏なんてすぐ来るつて！すぐ！だから今から計画たてよーよ。2泊3日がいいんだけど～～。」

「ちよつと待て！春にはオレの一年の華、体育祭があるんだぜ。」

「あつあ～～～。」二人の声が重なる。

なるほどと聞いたげな顔をして。

クラス替えといふのはわざとらしい（後書き）

駄文だな。
すいません。ほんと。

委員決め（前書き）

今回はすつげーー短いです。事故まで急ピッチで行きまや。

「くか つ。」「そう寝ていたのが悪かった。オレはあいつをナメていたんだ。

キンコーンカンコーン

「はつ」という大きな声とともに起きた。なぜかみんなクスクス笑っていた。ナツキを見ると、黒板を描していた。今すぐに見るとでも言つように。見てみると、そこにはニヤニヤしたタクヤがある場所を指していた。

そこには、体育祭実行委員 男 山口 海人 女 早川 由夜と書いてある。

犯人はすぐにわかった。ほんとすぐに。「タクヤ。お前だろ！」

「だあって、寝てたしね。カイトの名前はわかりやすいから、つい推薦しちゃつたんだよ。」

「理由になつてねえ」「半ばあきれ氣味に言つ。「まあまあ！私もやるんだしいいじゃないですか！」

「だつて！去年もオレがやつたんだよ！おつかしいだらー！」

「ぐだぐだ言わずにやつちやいなさいよカツイツト！」

「うつ！ナツキまで言つなよ！」「実はなあ、嫌な理由がもう一個あるんだよなあ。

「ふうーー」

「安心すんなよー！タクヤ！……えつ……おい……までよーーー！」

「……」タクヤは走つて逃げた。

オレもタクヤの後を追つて教室を出た。

「後でまたタクヤおれを言わなきや。一年の時も同じ」と
「もうつちやつたし。」
「そうだね。ユヨル。」

委員決め（後書き）

ゴヨル~~~~!!

実行委員会初回（前書き）

少し長めです。
キャラクターおかしいかもです。

実行委員会初日

「カイト君ー！今日、実行委員会ー！」

「えつあつうそだろー！？実行委員の担当の先生って紺野じんのだろーー？」

「えつ？ そうだけど、それが？」

「あいつ、オレのこと気に入ってるのか知らないけど、なーくんがからんでくんだよなあ。」

「まあ . . そだねーー。でもそれが？」

「去年！ー！オレあいつにーー！副実行委員長ひくじゆぎんちやうにさせられたのーー！ゴミ

ルもいたでしょーー！」

「そりだつたね . . . 。でも”やめてください”って言いふばいいじゃない。」

「そんな勇氣は . . ないんだよなーー。」

「ヘタレーーー。」

「はーいー！ヘタレで”ゼロこまーーす。」

「サ ハさんか！ . . あつもつー！こんなことしてたからー！行くよ！遅れたら、カイト君が謝つてよ？」

「へつへーい」

ガラッ

「「おつおくれましたーー。」」

「遅いぞー！これだから山口やまぐちだ。」

「えつオレだけ？ ユヨルは？」

「まあ、ではこれから体育祭実行委員会を始めたいと思ひます。・・・
・・・じゃあ三年のだれか。あいさつ。」

「起立！礼！」

「じゃあまず、委員長決めぢやおつか。三年～～立候補いる？・・・

「ハイ！」 真面田田まじめだ先輩がてをあげた～～！・・・

「真面田田。やるか？」

「いえ・・・、さきほど三年で話し合つた所・・・受験もあるし、
委員長は一年がいしんではないでしょつか。」

えつ！～～何言つてんの？ そんな事言つたら・・・。

「う～ん・・・。」 こつち見ないで～～！ 「いやにやしないで～～！

「たしか、僕らが一年の時にも一年生がやつてましたよね。」 はい
来ました！ これどどめ！

「よ～～しわかつた。やつしよつか。」 ほ～～ひ～～。

「じゃあ・・・。一年～～立候補いるか～～？」

ぱつ・・・と一年の全員が「オッちを見る。

その口は純粹に”お願い”とか”頼む”とかまあ許せる（本當なら
許さないけど。）コヨルもその一人なわけで。

許せるわけは、一いや一やしながらこつちを見てゆやつだ。そして、
ムカつくのがあきらかに後者が多いことだ。

「じゃあ口でいいな。」 わかつてたけどねー。コヨルも”ああ一納
得”みたいな顔してるし。

「いや待つて！ なんでオレ！？ なんでオレ！？」 おどろきびつくり
リピート！

「みんなお前見てるしな。もつ決定事項かど。」 うん。まだ決定
じゃないぜ。

「こやいやこや・・・・・・・・

「じゃあ口からは委員長の口口にしきつてもいいつか。」

パチパチパチツ

頑張れオレ！ · · · · · · · · · · ララバイ青春。
?

席を立つて前に行く。

「じゃあ、まず副委員長を名簿年選出してくださー。」

7

実行委員会初回（後書き）

もつじんどんどん飛ばしてこきたいと思こます。
そのせいで、文おかしくなるかもです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6701z/>

On Your Mark

2011年12月25日21時51分発行